関西大学　デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン

取組名称：関大LMSで繋がる「今の学び」と「未来の自分」 - 学習環境の再構築とキャリア支援 -

キーワード：# 学習履歴　#シームレスな学生支援　#キャリア支援ポートフォリオ

取組概要：本取組は、学習支援システムである「関大LMS」を機能強化することによって、「今の学び」と「未来の自分」を「可視化」し、「学修者本位の教育の実現」と「個別最適化した学生支援」を行う。具体的には、**①学習履歴を把握する授業動画配信機能による教育の高度化**、**②初年次から卒業時までのキャリア支援ポートフォリオの構築**を行う。関大LMSにおいて、教育支援とキャリア支援がシームレスに繋がり、学習履歴、視聴ログ等の可視化されたエビデンスに基づく総合的な学生支援を行うことによって、「未来の自分」づくりに向けた、学生自身の主体的な「今の学び」への動機付けやさらなる探究をサポートする学習環境の再構築とキャリア支援を実現する。

＜機関全体のDX推進計画＞

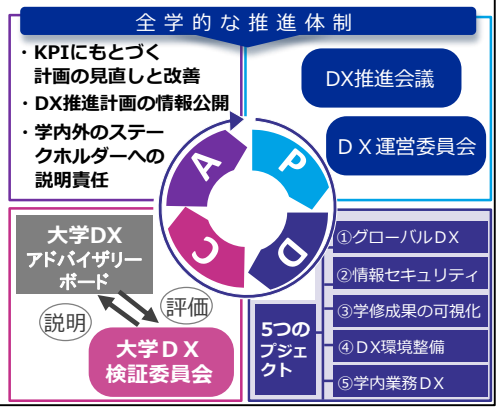
「関西大学DX推進計画」は、「Kandai Vision150」の目指す諸課題の達成を加速化させ、DXが進展し急激に変化する社会に柔軟に対応できる人材の育成に寄与するものである。本計画では以下の4つの項目を3カ年で実施し、遠隔・対面の学習空間をハイブリッドに活用する「ブレンド型教育モデル」を全学的に一気に実現する。

（１）学生の学習機会の制限・制約・バリアを軽減・除去する取組
ⅰ)空間的・時間的隔たりを越える学習機会と共修空間の提供、ⅱ)DXを活用した次世代の教育手法とコンテンツの創出、
ⅲ)文化や言語の違いがバリアとならない教育インフラの提供

（２）学修成果の可視化への取組
ⅰ)LMSの大幅な機能強化による学習履歴・習熟度の把握、ⅱ)入試から卒業・就職までのキャリア・ディベロプメント・システムの構築による考動力育成、ⅲ)学事システムと教学IRデータの統合データベースの構築

（３）DX推進に対応したインフラ、環境整備への取組
ⅰ)ハイブリッド型授業にも対応する教室の全学的整備、ⅱ)学内の無線ネットワークの拡充と自学自習スペースの充実、
ⅲ)デジタル技術を最大限に活かした発信基地の整備

（４）学内業務の効率化への取組
ⅰ)種々の申請・報告の全面的オンライン化によるワンストップの実現と事務負担軽減



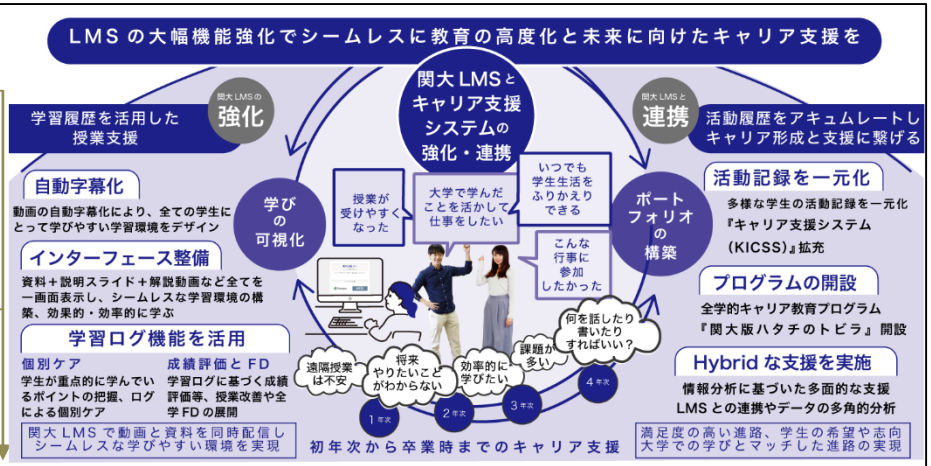
＜DX推進計画のうち本事業で取り組む内容＞

① 学習履歴を把握できる授業動画配信機能による教育の高度化

- 動画編集配信ソフトPanoptoを関大LMSに連環させ、動画と資料の配信を同時に行う。また、視聴ログの確認や自動字幕化機能を付加し、シームレスな学習環境を構築する。
- 各教室にカメラ・マイク・スピーカを導入し、教員の動画教材作成にかかる工夫や取組の選択肢を強化する。

② 関大LMSを活用した初年次から卒業時までのキャリア支援ポートフォリオの構築

- 関大LMSとキャリア支援システムを連関させたポートフォリオ機能を構築し、**「関大版ハタチのトビラ」**を通して、リアルな「今の自分」を知り「未来の自分」を考える。
- 入学初年度から学生の興味・関心、各種課外活動等を可視化・データ化することによって、これらと連環した将来に向けたプログラムの実施、情報を提供し、フィードフォワード型の個別支援を実現する。



＜取組の目標、実現する際の手段や方法、取組をとおして得られる成果＞

- 本取組によって得られる成果は、学習者が可視化された自らのアウトカムを意識しながら主体的に学びやキャリアのデザインを構築することができる点にある。
- ＫＰＩをはじめ視聴ログや各種アンケート調査から得られたデータを解析する。

2023年度達成目標：

授業アンケート「授業への参加意欲」：86.0%
「総合判断」：88.0%
キャリアセンター支援満足度：85.0%